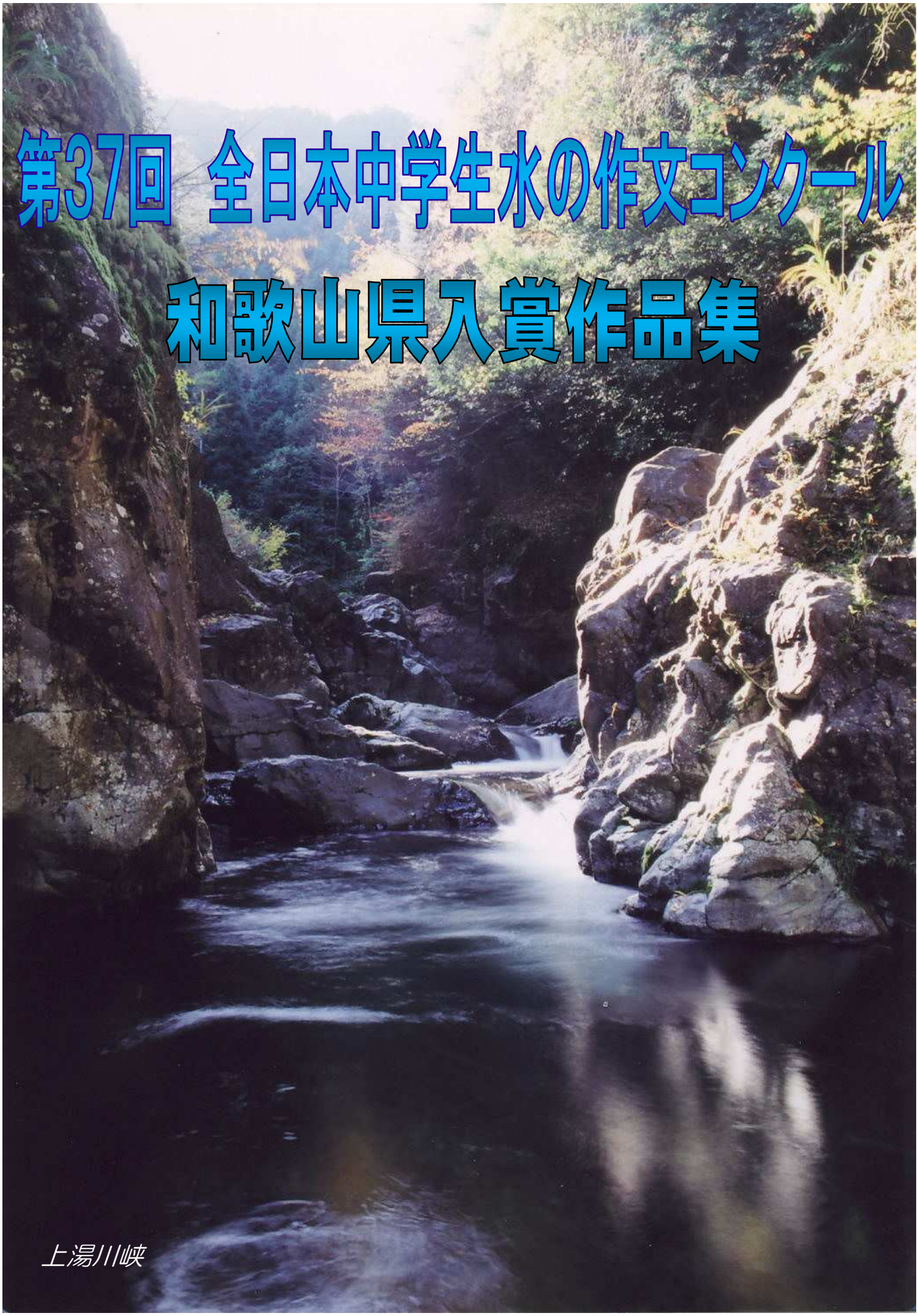
第37回　全日本中学生水の作文コンクール

和歌山県入賞作品集



上湯川峡

表紙の写真『上湯川峡』（和歌山県ﾎｰﾑﾍﾟｰｼﾞ　ﾌｫﾄﾗｲﾌﾞﾗﾘｰより）
峰々に染みに入った水が山柴水明の秘境の池上湯川に発し、
さがり滝や銚子滝などの景観美を形成しながら下流は湯川川となります。淡水魚の宝庫で、釣りや自然散策などにも絶好のところです。

あいさつ

水は、あらゆる生命の根源であり、私たちの暮らしや、農業、工業などの産業活動を支える限りある貴重な資源です。一方、近年では、世界的に渇水、洪水が頻発し、水利用の安定性や安全で良質な水資源の確保が重要な課題となっています。

こうした中、平成二十六年七月に水循環基本法が施行され、水を私たち共有の財産と位置づけるとともに、国民の皆様に、健全な水循環の重要性についての理解を深めていただくため、毎年八月一日を「水の日」と定め、様々な関連行事が行われています。

この一環として、和歌山県では、中学生を対象に、昭和五十四年度から「全日本中学生水の作文コンクール」を実施しており、本年は、七九〇編の応募をいただきました。「水について考える」というテーマにふさわしく、きれいな水を育む森林の大切さ、断水生活を通して感じた水のありがたさ、水をきれいにすることの大変さなど、普段は忘れがちな水の大切さが伝わってくる作品がたくさんありました。

このたび、入賞作品十八編を作文集にまとめましたので、ご家庭や学校でご活用いただき、水についての関心をさらに高めていただくことを願っています。

最後に、本コンクールに応募された中学生の皆さんと、ご担当いただいた先生方に厚くお礼申し上げます。

平成二十七年八月五日

和歌山県企画部長　高瀬　一郎

もくじ

優秀賞

澄んだ水を守るもの　和歌山県立向陽中学校　二年　亀岡　諒大　・・・1

蛍の水　和歌山県立田辺中学校　一年　坪田　遥奈　・・・3

水と生活と命　近畿大学附属和歌山中学校　一年　中谷　友　・・・5

入選

私たちの大切な水資源　和歌山県立向陽中学校　二年　磯部　礼奈　・・・7

貴重な水資源　海南市立巽中学校　三年　小名川　大樹　・・・8

とても大切な水　近畿大学附属和歌山中学校　二年　嶋　来雪　・・・9

汚水はどこから来ているの？　和歌山県立田辺中学校　二年　谷口　奈々恵　・・・10

生命の源に感謝　近畿大学附属和歌山中学校　一年　戸野　偉吹　・・・11

動物やヒトの水　田辺市立新庄中学校　二年　鍋島　有凜　・・・12

命をつなぐ水　近畿大学附属和歌山中学校　二年　野口果琳　・・・１３
一杯の命水　和歌山県立田辺中学校　二年　曲尾渉　・・・１４
もともとあるものだから　紀美野町立美里中学校　三年　森下真悠子　・・・１５
水をきれいにすることの大変さ　和歌山県立向陽中学校　二年　吉岡萌　・・・１６

佳作

始めてみませんか？　和歌山信愛中学校　一年　植田さちか　・・・１７
水について考える　和歌山県立田辺中学校　一年　岡本妃乃　・・・１８
防災学習を通して　那智勝浦町立宇久井中学校　三年　楠本愛　・・・１９
水について　海南市立亀川中学校　二年　常深晃暉　・・・２０
水と生命　和歌山市立有功中学校　三年　望月和花　・・・２１

（掲載順序は五十音順です。）

優　秀　賞

澄んだ水を守るもの

和歌山県立向陽中学校　２年

亀岡（かめおか）　諒大（りょうた）

「水道の水が茶色い！」

母が約十五年前、友達と旅行に行って驚いたそうだ。母が旅行に行ったのは、和歌山県の友ヶ島。「天空の城ラピュタ」の風景によく似ていると話題になった島である。友ヶ島には、戦争時代の砲台や防空壕が残っており、よく観光客が訪れている。その友ヶ島にある民宿に母達が泊まった。さあ蛇口をひねれば、透明ではなく茶色の水が。恐らく、友ヶ島には水の浄化設備が整っていなかったのだろう。まさか日本にそんな場所が、と話を聞いた私も衝撃を受けた。そして、それと共に様々なことを考えさせられた。

「日本の水は世界トップクラスだ」とよく言われている。確かにそうだ。蛇口をひねれば透明な水。それに、口にしても身体に害はない。私達は日本で育った。故につい、そのことを当たり前だと感じてしまう。では、世界的に見てみるとどうだろうか。そもそも水が手に入りにくい地域もあるそうだ。そして、やっと手に入ったとしても、浄化されていない為、病気に感染する可能性も大いにある。日本は設備に支えられているのだ。生活排水は、下水管を通り浄化施設で無害化される。もし浄化設備がなかったら、と私達は考えたことがあるだろうか。そして、茶色の水で手を洗いたいと思うだろうか。

さて、アメリカで「水を浄化するフィルター」が開発されたそうだ。容器の上にフィルターを被せ、水を流し込むだけで、水が飲めるようになるのだという。それに、フィルターというだけあって、かなり薄い。これは素晴らしい発明だと感動した。たとえ清潔な水が得られなかったとしても、安心して飲める水を作ることができるからである。では、そのような技術は何故生み出されたのだろうか。それは、清潔な水を手に入れることが困難な人々の為であろう。少しでも清潔な水を届けられたらという開発者の思いが込められている。そして、それを必要とする人々が世界にはいる。それに対し、日本人はどうだろうか。前述のとおり、日本の水の質は高い。厳しい水質検査を乗り越えた水。最近は、それだけでは日本人は満足し

ない。浄水器がかなり普及した為である。実際、私の家にも浄水器がある。浄水器を使い始めると、果たして普通の水は大丈夫なのだろうかという不安に駆られる。大丈夫だと心の何処かで思っていながらも。浄化施設で無害化された水を更に磨こうとする。水に恵まれた日本だからこそできることではないだろうか。透明で清潔な水を当たり前と感じてしまう、そのことだけにはとどまらなくなってしまった。様々なものが便利且つ低価格化していく中、私達の考えもそれに伴って安っぽいものになっていないだろうか。

水が貴重なものというのは、誰もが知っていることだろう。しかし私は、日本の高い技術が却って日本人の水に対する価値観を下げてしまったのではないかと思う。浄化施設を通せばまた水は元通りになる」などといった考え、そして浄化の技術は、日本だけでなく世界が抱える水質汚染という問題に蓋をしてしまった。勿論、技術というものは時代と共に生み出され、進化していくものである。ただ、私達の考えは常に一定でなければならない。技術のみで環境をより良くしていくことは恐らく不可能だろう。水の問題を始め、環境問題を解決できるのは、私達の「気持ち」だけだ。故に、私達は水の尊さなどを考え直さなければならない。

澄んだ水を守るためのもの」

それは私達人間の澄んだ心だと私は考える。

優　秀　賞

蛍の水

和歌山県立田辺中学校　１年

坪田（つぼた）　遥奈（はるな）

幼い頃、私は一度だけ、長野の山奥の川に蛍を見に行ったことがあります。そこは、川の上を自由に動く蛍がまるで流れ星みたいで、とても幻想的なところでした。

「すんごいね、きれいだね。」

体は落ちついてるのに心は興奮している私に、

「今のうちだけかもね。蛍見られるのは。」

と、お母さんは言いました。その頃の私には、この言葉がどういう意味か分かりませんでした。でも、手に触れた蛍が、光っているのに熱くないのは、蛍がとけて、いなくなっていくように思えました。

そして今。テレビや本で、皆さんは、

「蛍の幼虫がすめるのはきれいな川だけ。」

と言っているのを聞いたことはありませんか。蛍のすむためのきれいな水。私達は、なにげなく、蛇口をひねり、水を出します。その水は、公共下水道を通り、下水処理場にいきます。そして川が汚れる原因は、家で使った水などです。お風呂やトイレ、洗濯や皿洗いで汚れた水が川を汚し、蛍をすめなくしているのです。

カルピスジュースをつくるために、水を使います。いらなくなったり、賞味期限が切れた飲み物は、無造作に流し台に流します。なにげない行動が、きれいな川を消しているのです。

「水、出しすぎ。」

このことに気づいた私は、少しずつ、水に注意をはらうようになりました。手を洗うのに必要以上に水がでてたら、

「水、強すぎ。」

サラダのドレッシングで、必要以上にかけていたら、

「かけすぎ。あまったら捨てるし、もったいないやん。」

ちょっと、口うるさいかな……と思ったけれど、水のためならと思うようにしました。

「お母さん、蛍見たい。」

思いきって、言ってみました。でも、

「蛍は、もうほとんど見ない夏の風物詩。見れんのちゃうん。」

そう言われました。そのしゅん間、ほんの少し、目頭が熱くなりました。まだ。まだ足りない。蛍のための水は足りない。」そう思えてきました。

「よし。」

私は、そのとき、もう少しがんばってから、もう一度言ってみよう。そう心にちかいました。

淡い蛍の光。あのときの光は、私が今でも目をつぶれば、目の前にうかんできます。一つ一つの小さな光。あれは小さな命の輝きだったのではないでしょうか。

蛇口をひねると出てくる水――。その一滴が蛍を守り、蛍を生かす未来をつくるのかもしれません。だから私は、今日も蛇口を、少しずつひねります。

優　秀　賞

水と生活と命

近畿大学附属和歌山中学校　１年

中谷（なかたに）　友（あみ）

「水」は、私達が生きる上で、かけがえのない存在です。なぜなら、私達の体は、体重の約六十パーセントが水分でできており、何も食べなくても水さえ飲んでいれば、二〜三週間は生きていられると言われているからです。

一日の生活を考えてみても、洗面や歯みがき、手洗い、料理、お風呂、洗たく、トイレ、水やり等、水のない生活なんて考えられません。

今の日本は、水道のじゃ口をひねるだけで、安全な水がいつでもどこでもかんたんに手に入ります。

しかし、祖父母から聞いた話では、祖父母が子どものころは村で水の出る場所まで天びん棒をかついで行って、何往復もして生活用水をくんできたり、井戸水をくみ上げて運んだりしたそうです。しかも、台所で使う水をかめにためたり、ごえもん風呂に水をためたりするのは、学校から帰って来た子ども達の仕事だったそうです。今のお風呂は、スイッチ一つで全自動だし、約五十〜六十年前と比べて、今はすごく便利になったと思います。

反面、工場からの排水や家庭からの排水、農薬等で、海や川、地下水等の水質が悪化しているのかもしれません。

現に、私の母が小学生のころは、家の近くを流れる川では、夏になるとホタルが見られたと言います。しかし、今では、美しい水にしか生息しないホタルは、スポットを探し求めてわざわざ見に行かなければならないほどめずらしいものになってしまいました。

このように、私達は、便利な生活を手に入れる一方で、何か大切なものを失ってきたような気がします。

では、水源となる川や湖、ダムの水を汚さないために、私達が家庭でできることは何でしょう。

それは、家庭から出る排水の汚れを減らすことだと思います。

例えば、食器の汚れはふき取ってから洗ったり、天ぷらの油はそのまま流さずに、固めて捨てたりします。そうすることで、洗

剤の量を減らすことができます。

また、歯みがき粉やシャンプーを適量使うことで、洗い流す水の量を減らせます。

じゃ口をしっかり閉めることはもちろん、台所の排水口のこしあみの穴を小さくすることで、ごみが流れ出るのを防ぐことができます。

そしてさらに、米のとぎ汁は、庭にまくことで、排水を汚しません。

これらは、どれも我が家で実せんしていることばかりです。しかし、まだまだ母が中心となってしていることが多いので、これからは私も受けついでいきたいと思います。

日本では「水と空気はただ」と昔から思われがちですが、外国では、今でも遠くまで水をくみに行ったり、安全な飲み水を高いお金を払って買ったりしているそうです。

地球は、水惑星とも呼ばれますが、そのほとんどが海水で、淡水は一パーセントにも満たないそうです。

水は、限りある資源と呼ばれる理由がよく分かりました。

私は、水を汚したり、むだ使いをしていた人間の一人なので、これを機に、水への考え方を改めて見直して、水を大切に使っていきたいと心に強く思うようになりました。私一人の力は、小さいかもしれませんが、がんばりたいと思います。

私達の暮らしは、水を通して地球環境とつながっているのですから。

入選

私たちの大切な水

和歌山県立向陽中学校　二年　磯部（いそべ）　礼奈（れいな）

私たちのまわりでは多くの水が様々なところで使われています。例えば、飲料水や洗濯物を洗うための水、植物に与えるための水などと用途も違います。

私は小学校二年生の頃、父に水の大切さについて詳しく教えてもらったことがあります。それを教えてもらうきっかけとなったのは私が何気なく言った「お母さん。飲み物ちょうだい。あ、でもお水以外がいいなあ。だってお水は味があまりなくて全然おいしくないんだもん」の一言です。それを聞いた父はある写真を私に見せてくれました。それは、まだ五歳くらいの男の子が壁にもたれかかりながらも両手で小さなコップを持って涙を流しながら何かを必死に叫んでいる写真でした。それを見た当時の私は、「なんでこの子はこんなにやせてしまっているん。どうしてコップを持ちながら泣いてるん。お水を飲まんのはなんでなん」などと父に聞きました。すると父は「礼奈、水の大切さというものについて考えてみたことはあるか。水はとても大切なんだ。おまえにはこの子がどれほど水をほしがっているか分かるか。もっと水を大切にしなさい。そしてもっと水があることに感謝しなさい」と言われました。そのとき私は初めて水があることに感謝し、水の大切さに気付けたように思えます。

水の素晴らしさ。それは私たちの喉を潤してくれるということだけではありません。植物の成長を支えたり、汚れを落としたりと様々なことができます。その中の一つとして、気化熱を蒸発する際に吸収してしまい、まわりの気温を下げることができるというものがあります。そのことについて興味が湧いた私は中学校一年生の夏休み（去年の夏）に環境の宿題で気化熱の吸収はどのぐらい気温と関係があるのかということについて疑問が浮かんだため実験を行ってみました。実験の手順はまず温度計を一本と一メートル四方のロープの枠、二リットルの水の入ったペットボトルを六本、ストップウォッチを用意し、地面から一・二～一・五メートルほど離れたところで気温をはかります。次に一メートル四方のロープで作った、枠の中に水をまんべんなくまきます。そして五分後に気温をはかります。それをそれぞれの場所（芝生、コンクリート）で行い、結果をノートにまとめるというものです。その実験を一週間やってみて、変化などをまとめたりしました。また私は小学校四年生のとき、これとよく似た実験を父と母に手伝ってもらいながら行ったことがあります。そして科学実験で父や母、祖父母に聞いた水のさまざまな利用法や水の素晴らしさなどについて、友達をはじめた多くの人たちに知ってほしくて、毎日図書館へ行き、水について細かく記された本を借りに行った覚えがあります。そこに書いていた、私達に今できることとは何かと考えてみたときあなたは何を考えますか。私はお風呂で使った水を洗濯物を洗うときに使う水として利用してみたり、雨水を溜めておき、それを後日、植物にやるなどというようなことをするとよいと思います。別にとても手間のかかるようなことではないと思います。だから簡単にできることからやっていけばいいのではないかなと思います。水が出しっぱなしになってしまっていればただ止めるだけで良いのです。それをするだけで水という貴重な資源を守って行くことになり最終的にはのどがかわいてつらい思いをしている人たちの命を救うことにまでつながると私は思います。自然環境のため、多くの人たちのため、これからのためにも私は水を大切にして、水があるということに日々感謝して過ごしていければ良いと思います。

入選

貴重な水資源

海南市立巽中学校　三年　小名川（こながわ）　大樹（だいき）

地球は、宇宙から見ると青く輝いて見える、「水惑星」とも呼ばれる奇跡の星です。地球の表面の三分の二は水で覆われていて、約十四億立方キロメートルの水があると言われています。しかし、その大部分は広大な海の水なので、塩水です。私たちが、飲んだり、生活に使うことの出来る淡水は、わずか2、5％程度に過ぎません。しかも、淡水の大部分は南極や北極などの、氷河や氷です。それ以外の淡水の量は、地球全体の水の約0、8％ですが、その大部分は地下水なので、人間が簡単に利用出来る川や湖、浅い場所の地下水などの水は、地球上にある水の、たった0、01％でしかないそうです。「水惑星」と呼ばれる地球ですが、私たちが生きていく上で欠かせない水資源が、とても貴重であることが分かります。

世界では「水資源問題」が起きています。人口の少ないシベリアのバイカル湖に、世界の水資源の四分の一が存在していたり、カナダやブラジルのように、使える水の量が、実際の利用量よりはるかに多い地域もありますが、中東諸国のように、逆に大きく下回る地域も多くあります。

世界の総人口は約七十億五千二百万人です。が、このまま増加すると二〇五〇年には約九十一億人になると予想されています。人口の増加は、水の使用量の増加を意味します。水の使用量は、人口の増加や生活様式の変化に伴い、急増していて、現在は四十三ヶ国の約七億人もの人々が、「一人あたりの最大利用可能水資源量」が、充分ではない環境で生活していると言われています。

私が訪れたことのあるオーストラリアも、人口に比べて水資源量が不足している国のひとつです。そのため、ホームステイ先では、シャワーは、一人3分以内に済ませなければならないという決まりがありました。日本のように、毎日バスタブに湯をためたりもしません。庭に置いたタライに雨水をためて、ペットの体を洗ったり、子ども達の水遊びに使ったりもしました。皆が、節水を心がけて、貴重な水資源を大切に使って生活していることがわかりました。

日本も水資源量に恵まれているわけではありませんが、水道の蛇口をひねるだけで、綺麗で安全な水を利用出来るため、水問題を身近なものとして捉えている人は少ないと思います。私たち日本人が一日に使用する水の量は、一人あたり約二百八十九リットルだそうです。そのうち、飲料用は二〜三リットル程度で、大半は風呂、トイレ、水事、洗濯などに使われています。しかし、このように直接利用している水以外に、一人が一日に摂取する食料の生産に必要な、農業用水などの水の量は、約三千五百リットルにもなるそうです。

この私たちの生活に欠かせない資源である貴重な水は、雨から始まり、豊かな森の土の中にためられ、やがて川に流れ、浄水場で濾過され私たちの元へ届けられます。また、ペットボトルのミネラルウォーターは、雨が大地に染み込んで地層で濾過され、ミネラルを含んだ水になり、取水されるまでに、約二十年かかるそうです。だから、私たちが安心して使える水を得るためには、雨の降った場所から取水地までの広い範囲の自然を、守る必要があります。それは山頂から地下まで至る全ての自然です。

また、たくさんの水を得るためには、長い時間もかかります。普段の生活の中で、水資源が貴重なものであることを忘れずに、節水の工夫をしながら生活をすることが大切だと思います。これからの未来にも、人類がこの「水惑星」で安心して生きられるように、一人一人が、水資源について考えていかなければいけません。

入選

とても大切な水

近畿大学附属和歌山中学校　二年　嶋（しま）　来雪（こゆき）

地球は「水の惑星」と言われているが、地球の水のほとんどが海水であり、淡水は約二・五パーセントくらいです。そのうちの大半が南極や北極の氷や雪なので、実際に人間が生活に使える真水は約〇・〇一パーセントだそうです。

毎日何気なく使っている水について考えてみると、朝起きてから洗顔に歯磨き、トイレに食事、洗濯、お風呂など夜寝るまでの間に、たくさんの水を使っています。いったいどれくらいの水を使っているのだろうか。

調べてみると、一人一日に平均二百六十リットルの水を使っているらしい。生活用水だけでなく、工業用水や農業用水など、人間が生きていくためになくてはならないもの、それが水だと思います。

人間の体も、子供で約七十パーセント、成人では約六十パーセントの割合を水が占めているそうです。水を一滴も飲まずに過ごすと、一週間ほどで命を落としてしまい、逆に水だけで三～四週間生きられるので、水はとても大切です。

そんな命の源ともいうべき水はどうやって家の蛇口に来るのだろうか。私が住んでいる和歌山市は、紀ノ川の水を生活水に使っています。紀ノ川の長さは約百三十キロメートルで、奈良県にある大台ヶ原山から流れてきています。大台ヶ原山は日本有数の降水量を誇ります。山に降った雨が集まって川になり、ダムにためられ、紀ノ川となって和歌山市に流れてきます。その水が各地域の浄水場に取り込まれ、生活に使うための水になっています。

浄水場ではろ過などの八つの工程を経てから、配水池にためられて、水が各家庭へ届けられます。水道がなかったころは井戸を掘って地下水を使ったり、雨水をためたりしていましたが、水道水が普及したことによって、衛生状態が改善されて安全な水が使えるようになりました。世界中では今でも水が十分に使えず、汚れた水のせいで病気になったり、死んだりする人がたくさんいます。でも、私たちは浄水場のおかげできれいな水を使うことができているので、感謝しなくてはならないと思います。

紀ノ川では自然を生かした川づくりとして川の水をきれいにするヨシという植物を植えることで、いつまでもきれいな川を保ち続けられるように、川岸を自然の状態にもどす取り組みをしているそうです。

また、森林では、和歌山市民の森と水源地の森があります。市民の森では、紀ノ川の水源を保全するために樹の手入れを行い、樹を育てる森づくりを進めています。水源地の森は、紀ノ川の源流で、約五百年前から自然に成長してできた天然林です。広葉樹におおわれて、水をたくさんたくわえた天然ダムの役割をしています。紀ノ川の水を守るためにはこの森を守らなければなりません。

このように、水を守るためにたくさんの人が様々な努力をしていることを初めて知りました。だから、水を大事に使おうと思ったし、機会があれば色んな活動に参加してみたいと感じました。今まで当たり前のように使っていた水だけど、これからは感謝しながら少しでも節水できるように努力しようと思います。

入選

汚水はどこから来ているの？

和歌山県立田辺中学校　二年　谷口（たにぐち）　奈々恵（ななえ）

みなさんは汚水について考えたことはありますか。最近、水をきれいにしましょう、とよく耳にしますが、どうすれば水をきれいにすることができるのか、何が原因で水が汚れてしまったのか。私はその二つについて疑問を持ちました。

まず、何が原因で水が汚れてしまうのでしょう。第二次世界大戦後、日本は次々と工場を建て、産業が発展し便利な世の中となっていきました。しかしその反面、空気の汚れや森林伐採などの環境問題が増えていきました。その問題の中には、水に関する問題もあります。おそらく、工場によって排出される汚水が原因なのだろうと、私は推測しました。

しかし、調べてみるとこんな情報を得ることができました。なんと、現在は産業排水ではなく、生活排水が主な原因だというのです。昔、新潟水俣病やイタイイタイ病などの公害問題があったため、工場に対する規制が強化されたのだそうです。では、私達がいったい水にどのような悪影響を及ぼしているのでしょうか。

調べてみると台所からの排水が一番多く、二番目はトイレからの排水でした。私は最初トイレからの排水が一番多いと思ったので、驚きました。どのような物が汚水の原因となっているのか調べると、食べ残しが多かったです。みそ汁おわん一杯流すと、魚が暮らせるようになるための水に戻すには、浴槽約四杯分の水が必要だそうです。また、牛乳コップ一杯では、その約４倍必要だそうです。たったコップ一杯、おわん一杯でも流すと、水に悪影響を及ぼしてしまうのです。

では、私達はどうすれば水をきれいにすることができるのでしょうか。私はまず、食べ残しの出ないように多く作りすぎのないようにするべきだ、と思います。たったコップ一杯でも多くの人々が流すと、大変なことになってします。そうならないためにも、水をきれいにしよう、と一人一人が心がけるべきだと思います。また、残った水の使い方を考えるべきだ、と思います。例えば、米のとぎ汁は花の水やりに使い、風呂の残り湯を洗濯に使ったりなど、いろいろな使い方ができます。残ったから捨てる、ではなく、残ったからどうやって使おうか、と考えるべきだ、と思います。

私は今回の学習から、反省するべき点が二つあります。

一つ目は、もっと汚水について考えるべきだったということです。以前、私はみそ汁をそのまま流してしまったことがあります。今回の学習から、たったみそ汁おわん一杯でもかなり水を汚してしまっていると分かりました。これからは、反省を生かして食べ残しをしないように心がけたいと思います。

二つ目は、水は大切な資源だともっと意識するべきだったということです。以前まではあまり意識していませんでしたが、汚水も大切な資源を壊す一つです。水が汚いと、飲み水もなくなり私達人間も生きられなくなります。これからは、水は大切な資源であると、意識を深めようと思いました。

入選

生命の源に感謝

近畿大学附属和歌山中学校　二年　戸野（との）　偉吹（いぶき）

僕が水について考えた時、真っ先に頭に浮かんだのは、水不足に苦しむ途上国で井戸を掘る日本の国際協力の映像だった。僕はテレビを何気なく見ていたが、とてもその映像が印象深く残った。水が出た時の現地の人々の歓声、わき起こる拍手。そして、誰もが皆、笑顔に満ち溢れていたからだ。

そして、もう一つ頭に浮かんだのが、途上国の子供達や女性が数キロも離れた川に、照り付ける太陽の暑さと重さに耐えながら、毎日、何往復も水汲みをする映像だった。そして、その泥水を本当においしそうに飲む姿は、今でも目に焼きついて頭から離れない。

僕達は、水汲みで一日に何時間も使って、勉強が出来ない事を想像出来るだろうか。井戸が出来ると、子供達は学校で勉強が出来、女性は他の仕事が出来るのだから、僕達の想像を超えた喜びは、水が出た時のあの、とても印象に残った満面の笑みが全てだろう。

僕が水の有難みを強く感じたのは、小学生の時、水道工事で断水を経験した事だった。当初、予定では数時間と聞かされていた母は、少しの汲み置きしかしていなかった。しかし、工事が難航し、段々とお腹も空いてきた。だが、料理をしようにもまず、手が洗えない、お米も炊けない、お湯も沸かせない、そしてトイレにも行けない。あまりの不便さに僕達は外に出掛ける事しか出来なかった。その日、蛇口をひねり、水が出た時、僕と母は嬉しさの余り思わず声を上げた。こんなにも感謝して水を使ったのは生まれて初めてだった。何不自由なく水を使っていた僕にとって、この出来事はとても貴重な体験となった。

僕達、日本人は、とても恵まれている。僕達が毎日、当たり前に使っている水は、決して当たり前ではないという事を今一度、思い直さなければいけない。蛇口をひねれば、いとも簡単に安心、安全でおいしい水が飲める日本。しかし、世界中には安全な飲み水を確保出来ない人達が大勢いる。不衛生な水で命を落とす人が沢山いる現実を地球全体の問題として、もっと深く考え、助かる命を一人でも多く増やしていかなければいけないと思う。

次に、水と言えば僕が気になるのは、近年、気候変動による世界各地で起こっている水害だ。日本も突然の豪雨に見舞われ、洪水の被害にあったというニュースを目にする。洪水が起こると衛生面も悪く、農作物もだめになってしまう。温暖化に伴い、これからも水害は増えていくだろう。日本の治水のノウハウや技術を世界中に広めて、地球を守って欲しいと思う。

これから、世界の水不足は益々、深刻化していくそうだ。僕達は、一週間食べなくても何とか生きてはいけても、水を一週間飲めなければ生きてはいけない。水がなければ、植物は育たない。水がなければ、家畜も育たない。水は、人々の命を支える最も重要な「資源」なのだ。世界が水問題に直面している今、水の奪い合いで紛争などを起こすのではなく、人類共通の資源として世界各国が協力し合い、平和的に水不足を解消していく未来を僕は強く願う。

今の僕は、まずは、多くの人々によって安全な飲み水を毎日飲める事に感謝し、これまでよりも一層大切に使っていきたい。

入選

動物やヒトの水

田辺市立新庄中学校　二年　鍋島（なべしま）　有凜（ゆり）

私の家では、ニホンイシガメを飼っています。最初は、小さな箱で飼っていたのですが、だんだん大きくなり、今では、庭に穴を掘って池を作り、逃げないように格子を作り、産卵場を作り、ろ過装置を作り、水を順回させ、池の水がきれいになるようにしています。

冬の間は、池に水ゴケを入れています。カメは水ゴケの下で冬眠しています。たまに、水ゴケのすき間から姿は見えますが、温かくなるまで、水から出てきません。夏に生まれた赤ちゃんガメが、無事に冬眠から目覚めるか、心配です。

四月になると、冬眠から目覚めたカメたちが、甲ら干しを始めます。赤ちゃんガメの姿を見ると、うれしくなります。

五月の連休に、池のそうじをして、水を循環させます。池のそうじは、大仕事です。水をぬいて水ゴケを引き上げて、池を洗います。ろ過装置も洗います。三つの部分にわかれていて、中には、色んな物が入っています。カキガラや、素焼きの石や、うつ状の三材が入っています。それも、ていねいに水洗いします。半日かけて、池や池の回りを、春夏バージョンにします。最後に、ポンプの電源を入れて、完成です。池から、ろ過装置を通って、きれいになった水が、池に戻っていきます。水の流れる音を聞くと、夏がきたなぁー。」と思います。

水がきれいな状態を維持するのは、とても大変です。水は無色でパッと見ただけでは良い水の状態か悪い水の状態か良くわかりません。気温が高くなると「ゼ」が大量に発生して、池の底が見えなくなります。カメにとっては、姿が隠せるので、良いかもしれませんが、私たちにとってはさみしいです。だから池が影になるように、しゃまくをはります。

小ガメが、水面で休めるようにホテイ草を入れます。水質が良過ぎるとホテイ草は増えません。でも、ある水質になると、あっという間に一面ホテイ草だらけになってしまい、池の底まで光が届かなくなってしまいます。

池の中の様子が見えないと、小ガメがきちんとエサを食べているかわからないし、池の中に沈めている植木鉢の下じきになっていてもわかりません。

カメが十匹以上いたときは、ろ過が追いつかず、水がにごった感じになっていました。カメが多いときはろ過装置にカキガラを増やしたり、三材をかえたりしました。

絶妙なバランスで、池の水質が保もたれていると、カメは元気だし、金魚も元気、水面には、アメンボがいて子どもをつくったりします。また、トンボがたまごを産みにきます。ろ過装置の中でヤゴがかえってトンボに成長していたこともありました。

お父さんは、できるだけ自然な状態でカメを飼いたいと言って、毎年池をバージョンアップさせてきました。今は、水も落ち着いているみたいです。ほん少しの変化でも、小さな池の環境は大きく変わっていくので、気を付けないといけません。

水は、私たち生き物にとって、とても大切な物です。だから水をなくさないように、大切に使いたいです。

入選

命をつなぐ水

近畿大学附属和歌山中学校　二年　野口（のぐち）　果琳（かりん）

二〇一五年四月二十五日、ネパールで大地震が発生した。この地震による死者は七千人を超え、とても悲惨な出来事だった。しかし、何人かの人々が、がれきの中から救出されたという嬉しいニュースもあった。ある一人の少年は地震が起きてから約百二十時間後に救出された。生き埋めになるなどして水や食料を摂取できない場合、地震発生後から七十二時間を過ぎると生存率が急激に下がる、といわれる中、その少年は奇跡の生還を遂げた。少年は、がれきの中でぬれた衣服を絞って水分を取り、ギー」というバターオイルで飢えをしのいでいたそうだ。イギリスのＢＢＣ放送ではギーが命を救った」と報じられたらしいが、日本の医師は「彼の命をつないだのは、むしろ衣服を絞って飲んだ水の方だ」と言っていた。このニュースは、私に改めて命を守ってくれた水の大切さを思い出させてくれた。

しかし、水は時として多くの命を奪ってしまうこともある。二〇一一年三月十一日の東日本大震災。東北地方太平洋沖地震とそれに伴って発生した津波によって死者は約一万五千人となった。この犠牲者の方々の死因のほとんどが津波に巻きこまれたことによる水死だったそうだ。私は本当に怖くなった。でも、水は色々な場面で使われ、私たちが生きていくために必要不可欠なものなのに、ただ怖がっているだけでいいのだろうかと私は思った。

私がそう思うのには、もう一つ理由がある。それは私の住む和歌山県も他人事ではないからだ。和歌山県は、四国から紀伊半島を走る大きな断層があり、数十年以内にかなり高い確率で南海トラフ巨大地震が起きると予想されている。地震が起きた時、津波や河川の氾濫による水没の危険にさらされる。私は、この大きな二つの地震や津波、そして将来起きるとされる震災について考えることで、水の持つ色々な面を教えられた気がした。水は災害時には大きな被害をもたらすことも受け入れて、今、出来る限りの準備をし、災害をもたらす水ではなく、私達の命をつなぐ水にしなければならないと思った。

私は、中学一年生の夏に、キッチンから出る雑排水の捨て方について研究した。ペットボトルで、ろ過装置を作り、色々な雑排水を装置のフィルターを変えてろ過してみた。すると、透明に近い色になっても、完全な透明にすることは難しかった。また、その時に本やインターネットで調べると、魚が住める水質にするために必要な水の量は、お米のとぎ汁、五百ミリリットルで風呂おけ四杯分（千二百リットル）、味噌汁、二百ミリリットルで風呂おけ五杯分（千五百リットル）、天ぷら油に致っては、たった十五ミリリットルで、風呂おけ二十杯分（六千リットル）であると言うことがわかって驚いた。そして、小学生の頃、紀の川大堰や浄水場を見学して水の大切さを学んだこと、多くの方々が水をきれいにするために苦労を重ねていることを思い出した。日頃、蛇口をひねるときれいな水が出てくる日本にいて、水のありがたさを感じていただろうか。水を無駄使いしていなかっただろうか。この実験をして改めて水を大切にしなければならないと思った。

いざと言う時に、私達の生命をつないでくれる水にするためにも、日頃から水の使い方を考え、大切にしなければならないと思った。そうしなければ、自然から大きなしっぺ返しに遭いそうな気がする。

入選

一杯の命水

和歌山県立田辺中学校　二年　曲尾（まがりお）　渉（しょう）

蛇口をひねれば、水は「ザー」と音を立てて流れ出ます。私達は安全で清潔な水を安価で意図も簡単に使いたいだけ手に入れることができます。また、水がまるで無尽蔵にあるかのように無意識に思っています。

今月、私の家に届いた水道局の水道使用量と料金の明細書によると、三月から五月の二ヶ月間で三十六立方メートルの水を消費していました。料金は約四千円です。三十六立方メートルは三万六千リットル。私の家は三人いるので、一人当たり一日二百リットルの水を使ったことになります。トイレや風呂に使っている水の割合が大きいとは言え、ものすごい量だと改めて感じました。また、水の値段についても、一人当たり一日二十円程度で二百リットルもの水を使えていることになります。

人間が生きていくのに最低限必要な水の量は約五十リットルと考えられています。二百リットルだとその四倍を使っていることになります。日本で暮らす私達は、五十リットル程度の水量で我慢して生活していくことができるでしょうか。毎日、まっさらなお湯の風呂に入り、髪を洗い、身を清潔に保つことに慣れてしまっている私達の中に、そのような生活を想像できる人はいないのではないでしょうか。

アジアやアフリカでは、今でも水不足が深刻な問題となっています。生きていくのに最低限の水を手に入れるために、女性だけでなく小さな子供たちまで水汲みの重労働を強いられています。そして、その手に入れた水も衛生上決して安全であると言えず、水が原因で毎年多くの子供達が病気になったり、あるいは亡くなったりしています。たとえ生きていたとしても、子供の頃にかかった病気や、水汲みの重労働が原因で、学校に通うことができず、十分な教育を受けずに大人になってしまいます。その教育の喪失が、貧困のスパイラルを生み出すのです。このように、水不足が原因で起こる経済格差についてもしっかりと認識しておく必要があるのではないでしょうか。

私達はコップの水をかえしてしまっても、すぐに水道の蛇口をひねれば再び、コップを満たすことができます。しかし、水不足の地域の人々はどうでしょう。彼らにとっては、コップ一杯の水が命取りになるのです。

私達が、ほんの数秒出しっぱなしにして無駄にしている水で救われる命があります。そういう意識を一人ひとりが持ち、たくさんの水を使える恵まれた環境への感謝を忘れず、無意識の無駄使いを減らすことから始めなければなりません。歯磨きをしている間は水を出しっぱなしにしない、風呂の残り湯は洗濯に使う、トイレの流す回数を減らすなど、自分ができることから少しずつ実行していくことが大切なのではないでしょうか。そのことが世界の水問題を考える前提であると思います。

入選

もともとあるものだから

紀美野町立美里中学校　三年　森下（もりした）　真悠子（まゆこ）

私の祖母は口うるさい。

「ちゃんと蛇口閉めた？！。」

この一言が毎日必ずとんでくる。水が大切なのは良く分かるが、そんなに厳しく言わなくても良いだろう。いい加減耳が痛くなってきた。しかしそう簡単に祖母が黙ることは無いと思う。だから私は、なぜそんなに水に対して厳しいのかを一度祖母に聞いてみることにした。すると祖母はすんなり教えてくれた。

昭和二十二年、戦後のため祖母は大阪から鹿児島に疎開していた。まだ幼く、六歳だったそうだ。そして、そこから不便な生活が始まる。どこが不便かというと、身の回りにある水がとても少ないことだ。家の裏にある堀や、二十メートル近く掘った井戸を使って湧き水を取ろうとしたのだが、まったく水が湧いてこなかった。戦後だからというのもあるが、場所が場所だったらしい。しかしこのまま水を使わず生活をすることはできない。だから家から百メートルほど下ったところにある水を、運ぶことにしたそうだ。使うものは桶だ。天秤棒の前後に木の桶をかけて肩にさげて運ぶ。とても大変な作業だ。なにしろ桶は二十リットル水が入るもので、それを2個肩にさげる。さらに歩くのが平坦な道ならいいが、急な坂道だ。そこを五・六往復するのだ。こぼれないようにお腹に力を入れて苦労して運んだ水は、祖母にとってとても貴重なものだった。

運び終わった水は五右衛門風呂に流し込んで湧かす。そして入る時は少しでも水を無駄にしないよう、ゆっくりと入る。出る時もゆっくり出る。そんな生活を祖母は六年間も過ごしたそうだ。

六年後やっと落ち着いたとき、祖母は大阪に帰ることになった。

「やっとこの不自由な生活から抜け出せる！」

祖母はそう思ったそうだ。

引っ越してから数日、祖母は家族と近くの銭湯に行った。そこで衝撃を受けたらしい。お湯が湧き出ていたからだ。今まで水をとても大切にして生活をしていた祖母は、本当に驚いた。

「こんなに簡単に手に入るなんてすごい。」

そう思ったそうだ。

こんなできごとがあったため、祖母は水を大切にするらしい。祖母にとって水とは、決して無駄にしてはならないものだったのだ。

全てを聞き終わった時、私は少し申し訳ない気持ちになった。もともとあるものの大切さなんて、今まで考えたことが無かったからだ。でも災害などで水が身の周りから消えてしまってからその大切さに気付くのでは遅い。だからその貴重さをしっかり考えて、これからは水を大切に使っていこうと私は決めた。もしもなくなってしまった時、後悔しないように。

入選

水をきれいにすることの大変さ

和歌山県立向陽中学校　二年　吉岡（よしおか）　萌（めぐみ）

どうして、私達には「水」が必要なのでしょうか。それは私達の生命の源だからです。地球上の全てのものが水でつながっているからです。

私達の生活に大切な水は、私達の手で汚されつつあります。私達が手を洗う時、お風呂に入る時、トイレに行く時……。水は、私達の身の回りで一番身近な存在です。だから、いとも簡単に汚すことができるのです。

では、きれいに浄化された水が使えなくなったとしましょう。まず、飲み水がありません。私達にとって飲み水が無いということは、死んでしまうということです。また、汚染された水を飲むと、命の危険があるに違いありません。

水が無くなると、植物が育ちません。すると、野菜などが食べられなくなります。海の生物も死んでしまいます。草食動物は食べるものがなく死んでしまうし、草食動物を食べる動物も死んでしまい、どんどん連鎖して、とうとう地球上のなにもかもが消えてしまいます。

水は私達の生活を支える全てに関わっているのです。

そんな水はどんどんあふれ出てきている訳ではありません。水は循環しています。だから、使った後の水を放っておくと、どんどん水は汚れていってしまいます。ですが、自然界では、流れている水はとてもきれいなように思います。

私はそこで、疑問に思いました。動物たちが汚した水と人間が汚した水は違うのだろうか。そして、人間が汚した水を自然に返すと、環境が悪くなってしまうのはなぜか。

それは、汚す量の問題なのではないでしょうか。きっと自然界の生き物は自分たちが汚しても大丈夫だという限界を知っているのです。私達は何でもかんでも汚してしまいます。だから、自然はその汚れに対応できず、どんどん環境が悪化していってしまうのだと思います。

私はそこで、水をきれいに浄化してみようと思いました。簡単にできる方法であれば、工場で浄化する手間が減ると思ったからです。

少し汚れた川の水と川底の石を採取し、一緒に入れて放置しておくと、水が少しきれいになっているのを見ることができました。

なぜ、水をきれいにすることができたというと、それは、石だからではなく、石に付着している微生物の働きだったからです。微生物は、水中の有機物をエサにしているそうで、自然界では上手くバランスをとっているから水が汚れることはないのだと分かりました。しかし、完全に水はきれいにならず、どれだけ時間をかけてもそれ以上変わることはありませんでした。やはり限界があったようです。

私が水を浄化してみて思ったことは、時間と手間がかかってしまう、ということでした。いろんな手を加えないと、きれいに浄化することは難しいのです。簡単にきれいになると思っていた私はとても衝撃的でした。

「水」は簡単に汚すことはできます。しかし、簡単にきれいにすることはできません。長い時間と大変な手間で、やっと飲めるような水になるのです。私は、今までやってきた節水だけでなく、浄化するということをやってみて、改めて大切に水を使おうと思いました。水をきれいにするにはどれだけ大変なんだろうと思ったら、ぜひ自分でも水をきれいにしてみてはどうでしょうか。

佳作

始めてみませんか？

和歌山信愛中学校　一年　植田（うえだ）　さちか

私は生き物が好きで川や海の生き物調査によく行きます。私の家の近くには近木（こぎ）川という二級河川があります。環境省による水質調査で、平成五年には全国ワーストワンでしたが、今は生き物が沢山います。少し汚くて、ドブくさい下流でも、ケフサイソガニや小さなウナギ、それらを狙うサギやウがいます。上流では、カワトンボなどの水質が良いところにしかすめない生き物、さらに上流に行くと、川の水をくみに来ている人に出会います。飲んでも大丈夫なの？」と思いましたが、そのあたりでは川の水を生活用水に使っているそうです。私は昔話に出てくるようなきれいな水が身近にあり、うれしくなりました。

でも、昔は今より水がきれいだったか、というと、そうではなかったそうです。

例えば私の祖父母が子供だった昭和三十年ごろは、家の前の用水路にシジミやメダカ、蛍、ヤゴがたくさんいたそうです。しかし、田んぼに除草剤や殺虫剤をまくようになると、一・二年ですっかりいなくなってしまいました。農薬をまいたので、ボールが田んぼに入っても取りに入ってはいけません。」という張り紙をしていたそうですから、どんな害があっても効果があればいい、と考える時代だったのかもしれません。他には、洗剤の泡はもちろん、てんぷら油、生ごみ、雨であふれた糞尿など、いらないものをなんでも川に流すのが普通だった、と聞いて、おどろきました。それでは、水が臭くても、赤潮が発生しても当然です。飲み水は水道水だったそうですが、今と比べると、とても塩素くさく、まずかったそうです。特に、夏はドブくささを消すために、よりきつい塩素が入っていて、最悪な味、においだといいます。聞いているだけで「げぇー」という気分になってしまいました。私は浄水場の見学に行った時、お土産で水道水をもらいましたが、においがしなくて、おどろきました。浄水設備が良くなったそうですが、川の水がきれいになっているせいもあるだろう、と思いました。

ここまで調べて、近木川がこの二十二年で復活してきた理由が、わかってきました。

地域住民は清掃活動をしました。研究者は生き物のすみかになるアシを植え、海の水を浄化するコメツキガニが育つ環境を整えました。下水道や保安林も設備しました。近木川の復活は、人の努力の結果です。昔と今、上流と下流の水質の違いは、人の生活が簡単に自然に影響を与えることを示しているのだ、と気づきました。

私は、小学校で、水の循環を学びました。まず、山に降った雨が何百年もかけて地下からしみだし、川に流れます。そして、海にたどり着き、水蒸気となり、雲となり、雨となり、そしてまた土に染み込み…。ということは、私たちは江戸時代に降った雨を飲んでいることになります。私は考えました。もし、川や海に体に悪いものをそのまま流してしまったら…。最初に被害を受けるのは、川や海の生き物達。次に私達。そして何百年も先の私達の子孫ではないのでしょうか。自然の浄化システムや下水処理能力以上に水を汚してしまうのは、どう考えてもダメです。

今すぐできる小さな工夫として、私はなるべく少ない洗剤で洗い物をしたいと思います。今は下水処理の技術がとても発達しているので、少しくらい汚いものを流しても大丈夫だろう…。」と思ってしまいがちですが、それでは何ひとつ変わりません。つまり私達ひとりひとりが出来ることは微力でも、気をつければ、子孫達に美しい自然を残すことができるのです。

自然はすぐに悪くなりますが、良くなるには時間がすごくかかります。だから、手軽な事を、たまにでもいい、

手軽な事から、始めてみませんか？」

佳作

水について考える

和歌山県立田辺中学校　二年　岡本（おかもと）　妃乃（ひめの）

「水」それは私達にとって、生活になくてはならないものです。しかし世界では、「水」についての問題がたくさんあります。

一つ目は、世界の約七億人が水不足の状況で生活しているということです。原因の一つは、飲み水として利用できる水の割合は〇・〇一％にも満たないということが考えられます。例えば、地球上の水すべてが風呂桶一杯の水だとすると、私達が使える水はわずかに一滴。この一滴の水をすべての生き物が分かち合って生きていることになります。

二つ目は、水不足から食料不足に発展しているということです。小麦などの穀物の栽培には、大量の水が必要です。一キログラムの穀物の生産にはその千倍以上、つまり一トン以上の水が必要になります。また、アメリカやインドでも地下水が枯れ始めてから水が十分に得られなくなっているということも、増えていきます。

そこで私は、水道設備士の父に原因はなにかと聞いてみました。すると、最も大きな要因は私たちの生活を支えるために水の使用量が急増したことだと教えてくれました。そこで私は、なぜそこまで急増するのかと疑問に思い調べてみると、食糧を増産する為の水の消費が五十年前に比べて三倍も増加していたのです。このことを聞くと、私にも水を無だにしてしまったことが多々あることを思い出しました。シャワーの出しっぱなしなど、様々なことが頭に浮かびます。これらのささいなことが大きなこととなり、政府の今後の「水」に関する予測では、世界人口の3分の2が水不足になるといわれています。

また、日本が世界から水をかき集めてしまっていることも事実です。輸入に頼っている日本は、その生産に必要な水を間接的に消費していることになります。例えば、輸入された米、輸入された牛肉で作られた牛丼を一杯食べるということは、海外で使われた数トンの水を消費していることと同じです。

これらのことから、水が豊富な日本では、昔は自然が浄化できる範囲の活動でしたが、今はその範囲を超えてしまっていることが分かります。だから、これからは水を汚染し、ムダ使いしているのは自分であると知ること、徹底した節水「やめる・減らす・再利用」を心がけること、できるだけ国産品を利用すること、台所から油を流さないということを基本に、家族でしっかりと「水」に対するルールを決めたいと思います。

私たち日本人は、安心でおいしい水を飲めて、他の国よりもたくさんの水を使うことが出来ています。だから、水の大切さを感じづらいと思います。これからも、いつでも水を得ることのできる幸せと、それを支えてくれている世界の人々への感謝の気持ちを忘れずに、水をむだなく大切に使って、一人でも多くの人にきれいな水を届けられるようにすることが大切だと思いました。

佳作

防災学習を通して

那智勝浦町立宇久井中学校　三年　楠本（くすもと）　愛（あい）

私の学校では、防災学習に取り組んでいます。将来、南海トラフ地震が起こると言われていますが、私の住んでいる地域は、その被害を受ける可能性があります。防災学習では、そのようなことを含めた災害時に備えて、パーテーション作りや マイトイレ作りなどをしています。マイトイレは新聞紙とペット用のシートを使って作ることが出来ます。売られているものよりも安く出来て、コンパクトな状態で常備することが出来ます。

私が中学一年生の時、マイトイレ作りで施設の人たちに来ていただきました。その時に話していただいた内容で印象に残っているのが、阪神・淡路大震災のことでした。当時は断水により水洗トイレが利用できなくなったため、汚物の山ができて、とても不潔だったそうです。

防災学習では、地震が起きたことを想定して自分の家から学校に避難をする訓練もしました。災害時は、私の通っている学校が避難場所になるので、そこでの過ごし方を実際に体験しました。訓練の中で、私が一番苦労したのは、水を汲みに行くことでした。地震が起きれば阪神・淡路大震災の時のように断水してしまうかも知れません。この訓練では、水が使えなくなったことを想定して実際に給水車が来ました。あらかじめ用意していた空のペットボトルを持って行き、水を汲みました。大きめのサイズを二本だったので汲むのが大変で、持って行くのもとても重く苦労しました。

私は断水を一度経験しています。四年前の夏、私の住んでいる地域は台風１２号の被害を受けました。幸い、私の家は山の方にあったため、浸水はしませんでしたが断水はしました。水道の水はもちろん出ませんでした。トイレの水を流すことが出来ず、お風呂にも入れませんでした。水を確保しにスーパーへ行きましたが、ペットボトルの水がほとんど売り切れていたのを覚えています。でも、断水は少しの間だけだったので、後から父が持ってきてくれた水で何とか過ごす事が出来ました。私はいつも、水道から水が出てくるのは当たり前だと思っていましたが、あの台風によりいきなり水が使えなくなってしまったことで、普段のように生活が出来ない不便さを経験しました。

私はこの経験から、あることを想像しました。それは、外国の子どもたちが水を運んでいる様子です。水が十分に無い外国で、子どもたちが水を運んでいる様子をテレビで見たことがあります。その水は決してきれいな水とは言えません。病気にかかってしまうかもしれない命を脅かす水なのです。私は、いつも安全な水を使えることに感謝しなければいけないと思いました。

私は、防災学習を通して、水は普段の生活になくてはならないものだと実感することができました。これからも私は、防災学習を通して感じたことを忘れずに、普段から水を自由に使えることに感謝して、節水に心がけようと思います。

佳作

水について

海南市立亀川中学校　二年　常深（つねぶか）　晃暉（こうき）

皆さんは水についてどこまで知っていますか。

水は、日常の中で、多くの人たちが、当たり前のように使っていますが、私たちの知らないところでたくさんの役割を果たしています。

水は、「循環型の資源」と呼ばれています。水は使うと無くなってしまうのではなく、太陽のエネルギーを受けて、海などから蒸発して、雲から雨や雪になって地表を潤し、地下水や河川などでまた流れて海に流れてきて、また蒸発して雨などで地表を潤し、河川などを通ってまた海へ戻る、その繰り返し、すなわち自然の大循環を繰り返していくのです。

水循環基本法では、水循環とは、水が、蒸発、降下、流下又は浸透により、海域等に至る過程で、地表水又は地下水として河川の流域を中心に循環することと規定されています。私たちが「水を使用する」ということはつまりこの循環の過程で一時的に水を利用し、再び水の循環の中へ、戻していることになります。

「水を使う」と聞いて皆さんはどんなことを想像し考えていますか。大抵私たちは水を飲み水や料理、トイレ、シャワーなど普段の生活で使っています。さらに、プールや川、海で遊んだりするときはもちろん、水辺のジョギング、散歩などを楽しまれている人はたくさんいます。農業や工業にも多くの水が使われていますし、発電などにも使用されています。

大切な「水を使う」ためにダムや取水堰、発電所、用水路や浄水場、水道管がつくられています。また、私たちが使った水を自然の中に戻すためにきれいにする下水処理場などの施設もあります。ダム等の施設を作るために協力してくれた水源地域の方々がいます。

水を安全に安心して使用できるようにするため、水に係わる仕事をしている人がたくさんいます。

また、普段、私たちに潤いをもたらしてくれる水も、雨となって集中的に地域に大雨が降れば洪水が発生して私たちに被害をもたらしてしまいます。また、ずっと雨が降らないままだと渇水になってしまいます。このような自然災害は毎年のように各地で発生しています。

さらに、全世界へ目を向ければ、国によってはきれいな水が使えない人が多くいます。

普段、私たちは当たり前のようにたくさん使っていますが、実は知っているようでしらないことが多くあります。

こうした事を知ると、今まで無意識にかるく使っている水ですがこれからは少し意識を変えて水の使い方も少し意識してみてはどうでしょう。

佳作

水と生命

和歌山市立有功中学校　三年　望月（もちづき）　和花（のどか）

私たちは水とともに生きている。逆をいえば、私たちは水なしではとても生きられないだろう。そもそも、私たち人間は水の中で誕生した生命がさまざまな姿に進化した生物のうちのひとつだ。私たち人間の体内はほぼ水でできているというように、水中生活から陸上生活へ生きる環境が変化しても、その生命体は水なしで生きられない。

そこで私は考えた。死ぬという選択はなしとして、もしも水が使えない状況に出会ってしまったら、私たちはどうなるのか。例えると「断水」。私たちが断水を経験する可能性はそう低くない。老朽化による水道管の破裂や、停電による送水の停止、あるいは点検、工事による一時停止など、こういった原因での断水は私もよく耳にするので、いつかは経験するだろう。こんな場面では、いったいどんな苦労があるのだろうか。

調べると、断水生活を体験した人は、トイレを流すときに大量の水を流すので、運搬が大変。」や、風呂に入ってもシャワーがあびれない。」など、大量に水をつかう場面での苦労が一番困ると記していた。

このように、生活衛生上でも水は必要不可なものであることがわかった。生物の体自体に水が必要なのはあたりまえのことだが、生活面でも水は生物を支えてくれているのだ。

水は、すべての生物を支えるのと同時に、賢いものでもある。私は、水がずっとこの地球に存在し続けていられるのは、水がすごく賢いからだと思う。川から海へ流れ、海で水蒸気になり、雲になり、やがてその雲は雨を降らせ、地上にもどってくる。水は、今までずっとこれを繰り返してきた。そしてこれからもずっとこれを繰り返していく。生物には寿命があるし、心臓をつぶせば簡単に死んでしまう。だが、水はちがう。そもそも水に寿命はない。心臓もない。燃やしても、凍らしても、姿を変えて生きつづける。それを初めからわかっていたかのように、水は地球上に現れたのだ。

そんな水から、私たちは生まれた。今、地球上にいるすべての生命体は、水から生みだされ、水に育てられ、水によって支えられている。水は私たちの「原点」であり、「もう一つの母」なのだ。

このことをふまえると、水もまた「命」をもっているのかもしれない。私たちと同じ、「生命体」なのかもしれない。そんな水に、私たちは日々支えられていることを感謝し、ありがたく使わせてもらうことが大切だと思う。

第３７回「全日本中学生水の作文コンクール」概要

第３９回「水の週間」の行事の一環として実施された作文コンクールの概要は、次のとおりです。

１　応募要領

①テ ー マ・・・「水について考える」（題名は自由）

②対　　象・・・中学生（中学生と同じ年齢の方を含む。）

③原稿枚数・・・４００字詰め原稿用紙４枚以内、日本語で表記された個人作品に限る。
題名・学校名・学年・氏名（ふりがな）を記入する。

④あ て 先・・・和歌山県庁　地域政策課
〒６４０－８５８５　和歌山市小松原通１－１
ＴＥＬ　０７３（４４１）２４２３

⑤募集期間・・・平成２７年５月１５日締切り

⑥版 権 等・・・○応募作文は自作の未発表のものに限る。
○応募作品の版権は、主催者に帰属する。
○応募作文の返却は行わない。

２　応募状況

応募学校数	応募総数	学年別		
		１年	２年	３年
校	編	編	編	編
１３	７９０	２５０	４９３	４７

３　審　　査

応募作文７９０編を対象に、和歌山県審査において、優秀賞３編、入選１０編佳作５編あわせて１８編の入賞作文を決定。

（協　力　和歌山市中学校国語教育研究会）

４　表　　彰

（１）賞および賞品

賞	賞　品
優秀賞	賞状、図書カード
入　選	賞状、図書カード
佳　作	賞状、図書カード

（２）表彰式

優秀賞の受賞者を平成２７年８月５日、和歌山県庁において表彰

水とめぐる 水のめぐみ

第39回

8/1は水の日

8/1～7は水の週間

健全な水循環により、水の恵みを享受できる社会を目指して。

主催：水循環政策本部、国土交通省、都道府県、水の週間実行委員会

水の日水の週間　検索